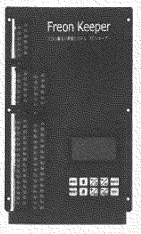
ナンバ、受注200台へ

フロン漏えい検知システム 排出抑制法追い風

【新潟】ナンバ（新潟県長岡市、難波昇一社長、0258・42・2211）は、フロンガス漏えい検知システム「フロンキーパー」について2017年3月末までに200台以上の受注を目指す。15年4月に施行されたフロン排出抑制法への対応が追い風になっており、16年は3月末までに25台を受注するなど好調。海外展開も視野に入れており、同システム事業を加速する方針だ。



ナンバのフロンガス漏えい検知システム

フロンキーパーは冷凍機や空調機の内部にバイパス管を設け、液面検知でフロン量を測定する。フロン量が基準値を下回ると、即座にメールで報告するため、異常を早期に発見できる。正確な漏えい量の把握も可能。

ナンバは冷凍機や空調機の設備工事が主力で、フロンの漏えいと圧縮機の故障に対して10年保証している。その中で「フロンに対する認識があまりにも低い」（難波社長）と危機感を抱き、製品を開発した。

現在の価格は8台の冷凍機を監視できるシステムで250万―300万円（消費税抜き、施工費込み）。当初は新潟県内のスーパーを中心に普及が進んだが、現在は県内外の比率が逆転している。

一方、一定以上のフロンが漏えいした際、国への報告義務を定めたフロン排出抑制法が施行。有資格者の定期点検とともに、ユーザーによる簡易定期点検を四半期に1回以上行う必要もある。

フロンキーパーを導入すれば、1年間のフロン量をデータとして残せるなど、法対応の際、負担を軽減できる。さらに冷媒フロンの漏えい最小化により、地球温暖化防止への貢献だけではなく、修理代と電気代を削減できるなどの利点がある。難波社長は「世界の取引先で試験を行っている。今後、フロンキーパーの販売増による」と、18年10月期には売上高で30億円以上（15年10月期は約20億円）を目指す。